

あいち健康福祉ビジョン(案)の概要

第1章 ビジョンの策定

1 これまでのあいちの健康福祉
 「21世紀あいち福祉ビジョン」の推進
 計画期間
 平成13年度～22年度
 基本目標
 自立と自己実現を支える福祉

3 新たなビジョンの策定
 名称
 あいち健康福祉ビジョン
 計画期間
 平成23年度～27年度
 内容
 新たに医療分野を加え健康福祉全般を対象

2 これからの社会の動き

超高齢社会の到来

- ・平成27年には4人に1人が高齢者(平成22年は5人に1人)
- ・平成37年には75歳以上人口が倍増(平成22年:661千人 平成37年:1,164千人)

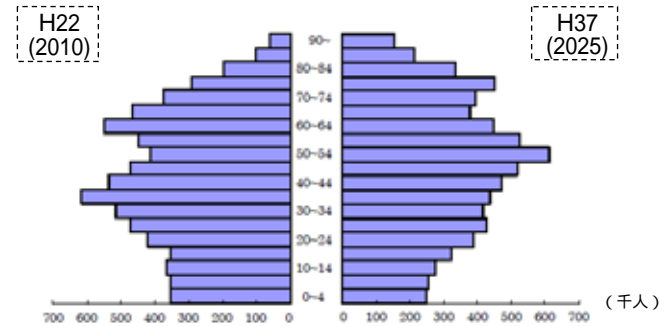
区分	愛知県全人口(千人)	年齢3区分別人口(千人)				高齢化率	
		0～14歳	15～64歳	65歳以上	うち75歳以上	(65歳以上の割合)	うち75歳以上
H22(2010)	7,417	1,079	4,833	1,505	661	20.2%	8.9%
H27(2015)	7,481	1,028	4,672	1,781	793	23.8%	10.6%
H37(2025)	7,444	887	4,594	1,963	1,164	26.4%	15.6%

資料: H22「あいちの人口(平成22年10月1日現在)」, H27・37「政策指針2010 - 2015」による推計

少子化と人口減少社会の到来

- ・平成21年合計特殊出生率は1.43(昭和46年は2.28)
- ・今後人口は減少に転じ、平成37年には生産年齢人口2.3人で高齢者1人を支える社会となる(平成22年は3.2人で1人)

本県の人口ピラミッド(男女計)



家庭の変化
 高齢者のみの世帯やひとり親世帯の増加
 家庭・家族のつながりの希薄化

地域社会の変化
 地域のつながりの希薄化
 NPOなどによる支え合い活動の活発化

健康福祉ニーズの多様化・複雑化
 働き方・家族形態・価値観などの多様化によるニーズの多様化・複雑化

安心を支える社会システムへの信頼感の低下
 医師不足により約2割の病院で診療制限
 毎年1,500人前後の県民が自殺
 新型インフルエンザのまん延
 生活保護受給者の増(10年間で2倍)
 年金など社会保障制度の持続可能性への不安

地方分権の進展
 国・県・市町村の役割分担の見直し、市町村主体の健康福祉サービスの提供
 多様な主体の協働

家庭や地域のつながりの希薄化に対応し、一人ひとりの尊厳を守りながら、予防や早期対応により事態の深刻化を防ぎ、限られた資源を有効に活用

かつてない少子高齢化、命を守る医療などに地域社会全体で対応

第2章 基本とする考え方

1 基本理念
 (目指すべき健康福祉社会像)
 ともに支え合う安心・健やかで幸せなあいち～『あいち健幸社会』の実現

2 基本とする視点
 (各分野の取組に共通する留意点)
 家庭の機能を支える地域全体で支え合う一人ひとりの生き方と可能性を尊重する
 予防・早期対応を重視する持続可能なシステムを構築する役割分担を明確化する

第3章 施策の方向

第1節 福祉	高齢者がいきいきと暮らせる社会へ
	子どもと子育てにあたたかい社会へ
	障害のある人が安心して暮らせる地域社会へ
第2節 保健・医療	誰もが健康で長生きできる社会へ
	必要な医療が受けられる社会へ
第3節 地域	健康福祉の地域力が充実した社会へ

詳細は次頁以降に記載

第4章 ビジョンの推進

「健康福祉ビジョン推進本部」における年次レポートの作成により、進捗状況を把握・評価し、公表するとともに、社会状況の変化にも対応
 「圏域保健医療福祉推進会議」の活用等により地域の実情に応じて推進